

「道央広域連携地域政策展開方針(H20～H24)」 に係る地域重点プロジェクトの進捗状況の概要

地域のめざす姿

本道経済をリードし、多彩な地域資源を活用した個性ある地域づくりを展開する「道央広域連携地域」

「主な施策の展開方向」

- 本道経済をリードする産業の活性化
- 地域の特色を生かした多種多様な農林水産業の展開
- 環境と調和した低炭素・循環型社会の形成
- 多彩な地域資源を活用した観光の振興
- 地域固有の文化や歴史の継承・活用
- 安心して住みよいまちづくりの推進
- 交流を支える基盤整備の促進

地域重点プロジェクトの推進状況

■ 道央工業地帯プロジェクト

【推進エリア：石狩、胆振、空知、後志地域】

【主な取組実績】

《道央中核地域》

- 企業立地・取引支援コーディネーター、市場開拓専門員、ジョイントコーディネーターの配置 (H20～H23)
 - ものづくり支援センター機能の整備（「立地連携プロデューサー」を苫小牧地域に配置、(地独)北海道立総合研究機構産業技術研究本部に「ものづくり支援センター」を整備）(H20～H24)
 - 人材育成の実施（人材育成実践事業、自動車産業等人材育成確保事業、次世代ものづくり人材の育成、北海道地域機械金属関連産業活性化人材養成等支援事業）(H20～H24)
 - 大学連携型インキュベーション施設「北大ビジネス・スプリング」の整備・運営 (H20～H24)
- ##### 《道央空知地域》
- 空知管内10市1町をエリアとする「道央空知地域産業活性化基本計画」を策定 (H20)

【主な成果】

《道央中核地域》

- 中京圏に企業立地・取引支援コーディネーターを配置し、企業訪問による情報収集等を実施（企業立地・取引支援コーディネーター3名配置）
 - 展示商談会の開催 (H20 日産自動車(株)、H21 関東自動車工業(株)、H22 スズキ(株)、H23 (株)デンソー、H24 ダイハツ工業(株))
 - 石狩湾新港に石狩 LNG サテライト設備設置
 - 「道央空知産業活性化企業誘致活動」
 - ・ 首都圏及び東海、関西圏企業1,000社へ企業誘致アンケート
 - ・ 企業誘致パンフレットの作成
 - ・ 「北海道滝川市企業立地セミナー in Tokyo」の実施
- ##### 《道央空知地域》
- 本州企業3件の管内立地(H20～H24)
 - 企業立地促進費補助金交付実績 13事業者：17件 (H20～H24)

【今後の取組方向（主なもの）】(H25～)

《道央中核地域》

- ① 自動車関連企業や環境・エネルギー関連企業などの立地促進（次世代自動車基幹部品工場、再生可能エネルギーによる発電事業など新エネルギー関連産業など）
- ② 道内企業の高い技術力や立地環境を東北・中京圏においてPRするための展示商談会の開催
- ③ 北海道大学をはじめとした大学・研究機関が持つ地域の知的資源を有効活用し、新事業の創出・育成を図る大学連携型インキュベーション施設「北大ビジネス・スプリング」の運営
- ④ 道内に立地を検討している商社等の発電事業者に対する企業訪問の実施

《道央空知地域》

- ⑤ 企業立地に関する相談者の利便性の向上を図るためのワンストップサービスの提供
- ⑥ 食クラスター活動の展開

①②③④⑤⑥ ⇒ H25からの地域重点プロジェクト：「道央地域産業集積プロジェクト」で推進

■北のゲートウェイ道央観光プロジェクト

【推進エリア：道央広域連携地域】

【主な取組実績】

- 道央地域観光戦略会議提言書に沿った取組の検討・実施。戦略会議専門部会に設置した「炭鉱・鉄道」部会・「ジオロジー」部会・「ニセコ」部会で広域観光の取組推進（H22～）
- 「道央広域観光ルート検討事業」を実施し、観光を取り巻く課題等の洗い出しや広域ルートを検討（H22～H23）
- 「空知・石狩広域観光推進事業」・「日高・胆振・十勝地域広域観光推進事業」の実施（H23～H24）
- 英語ブログサイト"talk-Hokkaido"を立ち上げ、管内在住外国人と協力して道央圏の観光・イベント情報等を中心に発信（H23～）
- 地域政策推進事業等によるプロモーション活動、外国人観光客受入体制の整備等（胆振：H23～H24、後志：H24～）

【主な成果】

- 5振興局（空知、石狩、後志、胆振、日高）で、観光団体などが広範に連携協力し今後の観光戦略について議論し、拠点となるまちと周辺地域が連携した滞在型観光の推進方策として、「ハブ観光のつくりかた」を提言。また、3つの専門部会において具体的な取組が進められた。
- モデルツアーの実施等により、広域観光ルートの開発の進展
- 英語ブログ"talk-hokkaido"を立ち上げ、道央圏の観光・イベント情報等を中心に発信、20ヶ国以上からアクセスがあり、管内から世界への情報発信の窓として機能

【今後の取組方向（主なもの）】（H25～）

- 道央地域観光戦略会議提言書に沿った具体的な取組の検討・実施
- 管内在住外国人に対して、観光・イベント情報などをE-mail等により提供するとともに在住外国人のブログ記事を発信し、海外等への情報発信力を強化
- 「炭鉄港」、「ジオロジー」、「しりべし『酒と肴』」をテーマとした広域観光推進（旧ニセコ）」の3部会を中心とした、提言書「ハブ観光のつくりかた」に沿った取組の展開

※本プロジェクト策定後の環境の変化や観光施策の転換などにより、当初のプロジェクトの目的をより発展させた各振興局における取組が行われていることから、本プロジェクトを発展的に解消し、各振興局での多種多様な広域観光の取組を図っていくこととした。

■石狩川流域ラブリバープロジェクト【推進エリア：石狩、空知地域（石狩川流域市町村）】

【主な取組実績】

- 里山モデル林森林整備の実施と、里山モデル林を活用した親子森林体験活動の実施（H22）
- 「道民の森」利用者増大を図るためのイベントの企画、周辺施設との連携拡大による一体的利用の促進、施設の計画的な修繕等の推進（H20～H24）
- 子どもたちが森林体験活動に取り組む「げんきの森」活動の推進（H20～H24）
- 「石狩川ルネサンスの森市民植樹祭」など各地域で行われる地域植樹活動の取組を推進（H20～H24）
- 「水源の森づくり」および「エコチャレンジの森」の取組に際して、同時に宿泊施設等の一体的な利用拡大の働きかけ（H20～H24）
- 石狩川流域が一体となった石狩川クリーンアップ運動の推進（H23～H24）

【主な成果】

- 森林体験活動ができる「げんきの森」を管内全ての市町において設定
- 各地で開催される植樹活動などにおいて、森林に対する理解や関心を深めるとともに道民との協働による森林づくりが進められた。
- 「ほっかいどう企業の森林づくり」の森林整備協定を空知管内において2件締結
- 河川の清掃活動など地域に定着した環境保全活動の深まり

【今後の取組方向（主なもの）】（H25～）

- 市町村等との役割分担により、道民との協働による森林づくりを推進
- 多様な人材の活用と連携による水資源確保のための地域づくりの推進
- 「道民の森」の活用等による森林・河川等のふれあいの機会を創出
- 水辺を活かした体験・環境観光の推進

※当初のプロジェクトの目的をより発展させた形で、地域の特性・特色に応じた取組を進めるため、本プロジェクトを発展的に解消し、各振興局での多種多様な環境保全活動等を進めていくこととした。

【地域で考える目標の状況】

項 目	H19 (基準年)	H20	H21	H22	H23	H24 (実績)	H24 (目標)
森林ボランティアと創る石狩地域の里山整備数	-	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	2箇所	2箇所
森林ボランティアの技術講習会等受講者数(累計)	-	40名	80名	115名	187名	279名	120
地域と協働した河川管理(清掃)活動自治体(市町村)数	29市町村	30	30	29	29	28	32

■ **おいしい!安心!こだわり農産物の空知ブランドづくり** 【推進エリア：空知地域】

【主な取組実績】

- 「空知産農産物ブランド化推進会議」の設立、開催（H20～）
- 「そらちワイナリー・ヴィンヤード連絡会議」の設置、開催（H23～）
- 醸造用ぶどうやワインの品質向上を目的とした「醸造用ぶどうセミナー」の開催、「醸造用ぶどうと空知産ワインの振興に係る基礎調査」の実施（H23～）
- エコファーマーの登録促進等、「環境」と調和したクリーン農業の推進（H20～）
- 「空そば活性化推進会議」の設立（H23）

【主な成果】

- 空知の農産物等を使った新たな特産品の開発
- ゆめぴりかをはじめとする北海道米の生産性の向上
- エコファーマー登録者数推移(H20：2,046人→H24：3,542人)
- イベント実施等によりマスコミを活用した空知産そばのPR効果
- 生産者、加工・販売者等の関係者による連携組織の設立

【今後の取組方向（主なもの）】（H25～）

- ①「空知産農産物ブランド化推進会議」の検討結果を踏まえた戦略的なプロモーション活動の推進
- ②醸造用ぶどうやワインの品質向上などを目的とした栽培及び醸造技術に関する研修機会の確保
- ③エコファーマーの登録促進等、「環境」と調和したクリーン農業の推進
- ④「空知のそば」の更なる振興に向け、「空そば活性化推進会議」の取組を推進し、「空そば祭り」によるPRなどの実施

①②③④⇒ H25からの地域重点プロジェクト：「そらち農業のブランドカ・生産力強化プロジェクト」で推進

【地域で考える目標の状況】

項 目	H19 (基準年)	H20	H21	H22	H23	H24 (実績)	H24 (目標)
大手量販店における「空知フェア」等の開催数	-	2回	2回	2回	3回	2回	3回
道内における北海道米食率	70%	75%	78%	78%	82%	90%	80%

■ 食や体験の魅力発見。そらちのファンづくり

【推進エリア：空知地域】

【主な取組実績】

- 「食クラスター」による新商品等の発掘・磨き上げの推進（H22～）
- 大手量販店との連携による「空知フェア」等の開催（H21～）
- 食と観光のガイドブック「そらいち」の発行、増刷、スマートフォン用アプリの制作（H23～）
- 「炭鉱（やま）の記憶」マネジメントセンターの設置（H21～）
- グリーンツーリズム受入体制の整備に向けた研修会の開催（H20～）
- そらち×いしかり広域観光ガイドの発行、そらちdeサイクリングのパンフレットの発行（H24）

【主な成果】

- 食クラスターの取組により「エゾシカボルシチ」が商品化
- イベント開催やガイド本発行によるマスコミを通じたPR効果
- ワインツーリズムの開催など、空知のワイナリーに対する評価と認知度の向上
- 炭鉱の記憶マネジメントセンター利用者の増(H21: 1,257人 → H24:5,408人)
- グリーンツーリズム受入者数の増（H21: 7,683人 → H24:13,368人）

【今後の取組方向（主なもの）】（H25～）

- ①「空知のそば」の更なる振興に向け、「空そば活性化推進会議」の取組を推進し、「空そば祭り」によるPRなどの実施
- ②「そらちワインピクニック」の実施に対する支援
- ③スマートフォン用アプリを活用した食と観光のPR
- ④グリーンツーリズム受入体制の充実に向けた各地域協議会との連携強化
- ⑤そらち広域観光協議会、ハブ観光交流会の開催
- ⑥「炭鉄港2013 北の近代三都物語」の開催及び関連ツアーの実施

①②③④⇒ H25からの地域重点プロジェクト：「そらちのファンづくり」食や体験の魅力発見・発信プロジェクトで推進

【地域で考える目標の状況】

項目	H19 (基準年)	H20	H21	H22	H23	H24 (実績)	H24 (目標)
「北のめぐみ愛食レストラン」認定数	25店	24	24	28	34	36	40
農業体験受入者数	7,021人	7,982	7,683	9,307	9,429	13,368	10,000

■ 地域で取り組む“エコそらち”の形成

【推進エリア：空知地域】

【主な取組実績】

- 雪氷冷熱エネルギーの利活用への取組に対する支援（H20～）
- 農業系未利用バイオマスの利活用に係る実証実験の実施、森林バイオマスの利活用促進に向けたデータ収集及び燃料供給体制の整備（H21～）
- クリーン農業の取組事例収集、優良事例のPR等（H20～）
- エコラウンジや自然観察会、こども自然塾など環境学習会の開催（H20～）

【主な成果】

- データサーバーの冷却実験や真夏の雪イベントの開催など利雪先進地としての取組が進展
- 木質チップや稲わらなどの利活用に向けた取組の進展
- YES!Clean及びエコファーマーの普及拡大による空知農産物のイメージアップ効果
- そらちエコラウンジ等の実施による、地球温暖化防止を考えた環境行動や環境に優しい取組への理解の深まり

【今後の取組方向（主なもの）】（H25～）

- ①「空知地域新エネ・省エネ導入推進会議」を開催し、管内における雪氷冷熱等の活用促進及び利活用推進の方策の検討
- ②バイオマスエネルギーの利活用に関する情報提供、支援の検討
- ③引き続き、エコラウンジや自然観察会、こども自然塾など環境学習会を開催
- ④ラムサール条約登録湿地に飛来するマガンによる小麦食害問題解決のため、異なる気象条件下においても有効と考えられる「代替採食地」設定手法実証実験の実施

①②③ ⇒ H25からの地域重点プロジェクト：「自然環境にやさしい“エコそらち”推進プロジェクト」で推進

④⇒ H25からの地域重点プロジェクト：「そらち農業のブランドカ・生産力強化プロジェクト」で推進

【地域で考える目標の状況】

項 目	H19 (基準年)	H20	H21	H22	H23	H24 (実績)	H24 (目標)
雪利用施設の貯雪量	8,044ト	13,600	20,925	21,627	21,705	21,547	16,000
森林バイオマス利用量	12,600ト	13,600	14,600	15,600	16,600	20,556	17,600
エコファーマーの認定戸数	1,400戸	2,108	2,200	2,536	3,370	3,542	2,400
「そらち移動エコラウンジ」開催数	年6回	8	9	10	11	14	12

■「炭鉱（やま）の記憶」で地域づくり

～ドイツに学ぶランドシャフトパーク構想～【推進エリア：空知地域（産炭地域及び周辺地域）】

【主な取組実績】							
<ul style="list-style-type: none"> ○本道近代化を担った三拠点（空知、小樽、室蘭・苫小牧）を結ぶキャンペーン「炭鉄港 北の近代三都物語」の開催（H22～） ○現地意見交換会や炭鉱遺産を巡るフットパスを実施（赤平市内、三笠市内）（H22～） ○『炭鉱（やま）の記憶』マネジメントセンターの設置、ホームページによる情報発信、広域的ルートツアーの企画、石炭や炭鉱に関連する商品の企画提案（H21～） ○「そらち炭鉱（やま）のまちガイドマップ」の作成（H20～） 							
【主な成果】							
<ul style="list-style-type: none"> ○「炭鉱（やま）の記憶」を地域資源として、まちづくりに活用する動きが萌芽 ○炭鉱関連施設の開放や写真展の開催、地元団体によるフットパスイベントなどが継続的に展開 ○マネジメントセンターによるワンストップサービスやコンシェルジュ機能の発揮 ・マネジメントセンター来館者数 H21:1,257人 H22:3,667人 H23:4,378人 H24:5,408人 							
【今後の取組方向（主なもの）】（H25～）							
<ul style="list-style-type: none"> ①「炭鉱（やま）の記憶」を活用した地域づくりの機運醸成を図るセミナーを開催 ②ガイド育成に向けたガイドマニュアルの作成 ③マネジメントセンターを拠点にワンストップサービスの提供や人材育成を行うとともに、ホームページによる地域情報の受発信を行い、管内の情報発信力の強化 ④マネジメントセンターによる「炭鉱（やま）の記憶」を中心に据えたツアー等の実施 							
①②③④⇒ H25からの地域重点プロジェクト：「そらち『炭鉱（やま）の記憶』で地域づくり推進プロジェクト」で推進							
【地域で考える目標の状況】							
項 目	H19 (基準年)	H20	H21	H22	H23	H24 (実績)	H24 (目標)
地域づくり活動団体の会員数	1,056人	1,030	1,126	990	810	836	1,600
人口（社会動態）減少率	2.21%	1.74	1.57	1.18	1.13	1.20%	1%台
交流人口	3,109千人	2,821	3,274	3,055	3,216	3,021	3,731
地域マネジメント機能の構築	無	無	有	有	有	有	有

■石狩アグリ！ジャンプ・アッププロジェクト

【推進エリア：石狩地域】

【主な取組実績】							
○YES!clean登録集団への技術指導及び表示制度の普及啓発、「持続性の高い農業生産方式の導入の促進に関する法律」に基づくエコファーマーの認定（H20～H24） ○食品関連事業者と農業生産現場の視察交流会等の開催（H20～H23） ○農業体験ツアー、加工体験料理教室の実施（H22～H23） ○石狩産の旬の野菜や機能性についての消費者へのPR（H23） セミナー：4回、料理講習会：2回、情報誌の発行：6回、いしかり地産地消ガイドマップ作成 ○石狩北部地域「食・体験・観光」プログラム（周遊マップ）の作成（H22～H23） ○地産地消ブランド「さっぽろハーベストランド」の創設（H21）							
【主な成果】							
○YES!clean登録集団：25年3月現在 14集団 ○エコファーマー：25年3月現在 1,229名 ○農商工連携の取組：H21～23 21件 ○JAいしかりにおけるさつまいもマッコリの商品化（H23） ○地域における都市部の消費者等を対象とした食育活動等の拡大							
【今後の取組方向（主なもの）】（H25～）							
①大消費地近郊の利点を生かした地産地消の一層の推進と、地域資源を生かした6次産業化・農商工連携の推進 ②直売所・市民農園マップ、農産物加工品パンフレットの作成・配布 ③農業体験事業の実施及びグリーン・ツーリズム推進に係る管内連絡会議・研修会の開催							
①②③ ⇒ H25からの地域重点プロジェクト：「石狩アグリ！元気な地域づくりプロジェクト」で推進							
【地域で考える目標の状況】							
	H19 (基準年)	H20	H21	H22	H23	H24 (実績)	H24 (目標)
地域農林水産資源 を活用した商品開 発数	8件	14	21	26	29	33	13
ふれあいファーム 登録農場数	109ヶ所	106	106	107	107	113	124

■石狩地域力向上プロジェクト

【推進エリア：石狩地域】

【主な取組実績】							
○DIGマスターの養成、防災リーダー研修、上級防災リーダー研修及び自主防災セミナーの開催（H22～H24） ○ファミリーサポートセンター事業の充実（H20～H24） ○住みかえ支援、世代間交流等をテーマとしたセミナーの開催、住みかえ運営体制に関する検討（H24）							
【主な成果】							
・地域のコミュニティ活動が活発化 ・どさんこ・子育て特典制度の定着 ・住みかえに対する住民の関心が高まり、行政の支援体制も進展							
【今後の取組方向（主なもの）】（H25～）							
①地域活動を担うリーダーの育成 ②空き家の有効活用やコミュニティビジネス等による商店街活性化、世代間交流、定住促進など地域活性化策の検討、推進 ③高齢者の住まいの安心に向けた取組の推進 ④子育てボランティアの育成など子育て環境の整備促進と、地域ぐるみで子どもを育てる体制づくり							
①②③④⇒ H25からの地域重点プロジェクト：「石狩地域コミュニティ再生プロジェクト」で推進							
【地域で考える目標の状況】							
項 目	H19 (基準年)	H20	H21	H22	H23	H24 (実績)	H24 (目標)
自主防災組織率	65%	62	62	62	62	62	73

■ 地域力発掘！“石狩滞在型観光”進化プロジェクト

【推進エリア：石狩地域】

【主な取組実績】							
<ul style="list-style-type: none"> ○「石狩滞在型観光・魅力発信事業」を実施（H22） ○えにわ・自転車散歩2012(夏)、えにわ・自転車散歩2012（秋）及び自転車フォーラムを開催（H24） ○地域資源を生かした滞在型観光の推進に向けて、「アジア圏観光客おもてなし向上事業」、「そらち×いしかり広域観光プロデュース事業」を実施（H24） ○札幌・新千歳空港を核とした観光情報発信の強化に向け、「道央広域観光ルート検討事業」（H23）、「いしかり”とっておきの魅力”発信事業」の実施（H23） 							
【主な成果】							
<ul style="list-style-type: none"> ○イシカリとっておきガイド」を7万部作成し、市町村、観光協会、観光施設、エージェント等に配布し、食観光資源の発掘、PRを行った ○「いしかり×そらちツーリズム・カフェ」の開催（4回）を通じて、広域的な視点での地域資源の拾い直しや再発見が促進 ○石狩地域体験観光ミーティングの開催などを通じて、地域における体験観光の現状や課題等に対する共通認識が深化、また、広域観光モデルツアーの実施（2回）を通じた広域観光ルートの開発の促進された。 							
【今後の取組方向（主なもの）】（H25～）							
<ul style="list-style-type: none"> ①「石狩食観光」の推進 ②石狩エリアの観光振興に向けた都市と自然が共存している石狩観光スタイルの確立 ③北の玄関にふさわしい安心・快適な受入環境づくり ④東アジアなどからの観光客の誘致促進 							
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> ①②③④ ⇒ H25からの地域重点プロジェクト：「石狩観光スタイル深化プロジェクト」で推進 </div>							
【地域で考える目標の状況】							
項 目	H19 (基準年)	H20	H21	H22	H23	H24 (実績)	H24 (目標)
観光入込客数 (延べ人数)	2,450 万人	2,337	2,352	2,267	2,189	2,322	2,850

■ 石狩地域クリーンタウン・プロジェクト

【推進エリア：石狩地域】

【主な取組実績】							
<ul style="list-style-type: none"> ○廃棄物系バイオマス利活用施設の設置や廃食用油の回収拠点拡充・BDF燃料の活用（H20～H24） ○不法投棄防止の向け、夜間監視パトロールの実施や監視カメラの設置（H20～H24） ○エコカレッジ開設による次世代環境リーダー養成とこども環境白書の発行（H22～H24） ○太陽光発電システム等家庭向け新エネ・省エネ機器導入助成（H23～H24） 							
【主な成果】							
<ul style="list-style-type: none"> ○バイオマスの利活用に向けた取組が広く周知されたことにより、再生利用に対する意識が醸成 ○監視パトロール等の取組みが継続されたことにより、不法投棄等の未然防止に向けた意識が醸成 ○省エネ機器の導入などCO2削減に向けた様々な取組がなされたことにより、道民の環境への意識が醸成 							
【今後の取組方向（主なもの）】（H25～）							
<ul style="list-style-type: none"> ①地域特性を生かした新エネルギーの導入促進に向けた市町村及び関係団体等との情報共有、相談窓口の充実 ②環境・エネルギー産業の立地や関連する地域ビジネス創出等への支援 ③リサイクル施設整備や小型家電や紙類など資源ごみの回収の促進、バイオマス利活用の推進 ④不法投棄監視・防止啓発パトロールの実施、不法投棄・不適正処理事案への指導体制の充実 							
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> ①②③④ ⇒ H25からの地域重点プロジェクト：「スマート&クリーンタウンプロジェクト」で推進 </div>							
【地域で考える目標の状況】							
項 目	H19 (基準年)	H20	H21	H22	H23	H24 (実績)	H24 (目標)
廃棄物系バイオマス 利活用率	38%	—	—	—	36%	—	65

※4年毎の調査＝H20～H22はデータなし。

■ 活力ある“しりべし”農水産業の振興

【推進エリア：後志地域】

【主な取組実績】

- 北後志産の「おうとう」「ブルーン」「西洋なし」を対象に、産地ブランド力向上のため、生産と消費両面からの取組を実施(H21～23)
- YES!clean表示制度普及や有機農業推進計画の促進など、環境と調和した農業生産に向けた農業改良普及活動の実施（H20～）
- ヒラメやニシンの種苗放流など資源増大対策
- 磯焼け漁場回復に向けた取組実施（藻場造成事業(H20～)、藻場∞LANDプロジェクト(H22～)）
- 海の環境保全に関心の高い企業から募った協賛金を原資とした取組（H22～）

【主な成果】

- 安心・安全な農産物生産の進展
 - ・YES!cleanに取り組む生産集団数:42団体(H24)
- 後志北部地区のニシンは、安定的な放流体制が構築されつつあるほか、南部地区で天然発生の稚魚が相当量確認されるなど、種苗放流の効果が発現
 - ・後志北部地区水揚げ量：282トン(H19)→551トン(H24)
- トド被害防止強化網の導入は165ヶ統で実施、損傷が小さく、短期間での操業再開が可能に。
- 漁業者確保の取組等により、H20年度以降68名が新たに就業

【今後の取組方向（主なもの）】（H25～）

- ①収益性の高い後志農業の確立に向けて、市町村・JA等による産地ブランド力向上の取組等に対する支援や、馬鈴しょの安定生産に向けた改良品種の普及促進、農地（水田・畑）や用排水施設等農業生産基盤の整備を実施。
- ②環境に調和した農業の確立に向けて、YES! Clean登録品目の拡大及び消費者への制度の浸透
- ③ニシンの放流地区拡大に向け、引き続き試験放流による効果調査事業を実施
- ④トド被害防止強化網の導入促進など、引き続き、トドによる漁業被害を低減するための支援を検討

①②③④ ⇒ H25からの地域重点プロジェクト：「活力ある“しりべし”農水産業振興プロジェクト」で推進

【地域で考える目標の状況】

項目	H19 (基準年)	H20	H21	H22	H23	H24 (実績)	H24 (目標)
クリーン農業に取り組む生産集団数 (YES!clean)	28	28	29	41	40	42	33
GAP(農業生産 工程管理)導入に 取り組む産地数	3	14	18	18	18	18	15
ニシン種苗放流に 取り組む地区数	4	5	5	5	5	5	6
トド被害未然防止 のための強化網導 入数	148	153	156	160	161	165	168

■「食」の“しりべし”ブランド化の推進

【推進エリア：後志地域】

【主な取組実績】

- 管内の隠れた特産品の知名度アップのため、商談・マッチング会（H20～）による販路拡大や新商品開発、札幌でのフェア開催（H21～）
- 農商工連携による新たなビジネスチャンスを目指すとした連携支援事業の実施（H22～H23）
- 北後志産「おうとう」「ブルーン」「西洋なし」の産地ブランド力向上の取組（H21～H23）
- 地元産食材の学校給食での活用促進、後志産米の消費拡大及び業務用米の利用推進（H20～）
- 地元農産物や加工品を活用した直売市やイベント開催など、食育及び愛食運動の推進（H22～）
- ・食育講演会（H22～H23） ・親子料理教室の開催（H22～）

【主な成果】

- 札幌でのフェア開催により、札幌圏の消費者に対する後志管内特産品の認知度向上が図られたほか、商品購入者へのアンケート結果が商品改良に効果を得た。
- 札幌圏での管内特産品の認知度が向上したほか、商談マッチング会では、地元企業と百貨店の間で、H20年以來19件の商談が成立
- 平成24米穀年度（H23.11～H24.10）北海道米の道内食率が、過去最高の82.9%と、後志産米を含む北海道米の評価・支持が着実に定着
- 「北の愛食レストラン」は、PR活動の結果、認定店が増加傾向にあり、制度が着実に浸透

【今後の取組方向（主なもの）】（H25～）

- ①後志の地域ブランド向上を図り、首都圏への販路拡大をめざして、後志の特産品の磨き上げを行うためのアドバイス会や試食会の開催、飲食店等に関する情報発信を実施
- ②YES!clean表示制度を活用した食の「安全」「安心」からのブランド化の取組みを継続して実施
- ③地元農水産物を活用したイベントの開催など、食育及び愛食運動を推進

①②③ ⇒ H25からの地域重点プロジェクト：「“しりべし”一次産品を生かしたブランド化の推進プロジェクト」で推進

【地域で考える目標の状況】

項目	H19 (基準年)	H20	H21	H22	H23	H24 (実績)	H24 (目標)
クリーン農業に取り組む生産集団数（YES!clean）	28	28	29	41	40	42	33
GAP（農業生産工程管理）導入に取り組む産地数	3	14	18	18	18	18	15
「北のめぐみ愛食レストラン」の認定数	56	45	45	47	47	47	102

■“しりべし”国際観光リゾートエリアの形成【推進エリア：後志地域】

【主な取組実績】

- ロハスをテーマに熟年層をターゲットとしたプロモーション活動（H20～H22）
- ニセコエリアとその周辺地域の連携強化を目的とした懇談会や視察会の開催（H23）
- 「アジア圏観光客誘致推進事業」（H21～H22）により、ホスピタリティ向上の研修会の開催、パンフレット、DVDによる情報提供の充実に向けた取組を実施
- 後志地域において未利用となっている観光資源を発掘し、地域の魅力として発信（H24）
- 「後志景観広告サイン推進事業」（地域政策推進事業）において策定した「羊蹄山麓景観広告ガイドライン」（H22.3月策定）の普及活用、空き家対策を促進（H21～）

【主な成果】

- 「しりべし国際観光リゾートエリア滞在化事業」などの滞在化促進の取組により、平均宿泊日数が増加。また、「アジア圏観光客誘致促進事業」のほか、各市町村における外国語対応職員の配置などにより外国人観光客の受入体制の整備が進み、外国人宿泊客延数が増加。
 - ・観光客平均宿泊日数：H21…1.16泊、H22…1.21泊、H23…1.33泊、H24…1.28泊
 - ・外国人宿泊客延数(泊数)：H21…313千人、H22…368千人、H23…276千人、H24…454千人
- 「羊蹄山麓景観広告ガイドライン」において、景観に配慮した小型の広告を推奨した効果により、許可の申請件数が、H21の648件からH24には435件に減少。
 - また、ガイドラインの方針により、管内の違反広告物等の除却が進んでいる。
 - 違反広告物除去件数：H21…50件 H22…72件 H23…58件 H24…55件
- 「しりべし空き家BANK」登録物件29件のうち、19件が制約となった(H24)

【今後の取組方向（主なもの）】（H25～）

- ①「酒と肴」をテーマとした観光キャンペーン展開のため、多業種や地域で構成する推進会議において、インターネットや旅行雑誌などの活用やモニターツアーの実施等によるPRを実施
- ②アウトドアなどの魅力発信のための雑誌社を招へいたPRを実施
- ③滞在型観光の促進のため、セミナー開催等により、ハブ観光の理解促進
- ④観光案内所の案内員等を対象としたセミナー等の開催等により、外国人観光客向けのホスピタリティを向上
- ⑤北海道新幹線開業効果を地域において享受するため、観光商品づくりや人材育成等を実施
- ⑥景観形成の取組に向けた調査等の実施や、空き家の有効活用に向けた調査等、良好な景観保全への取組の実施。

①②③④⑤⑥ ⇒ H25からの地域重点プロジェクト：「“しりべし”国際観光リゾートエリア形成プロジェクト」で推進

【地域で考える目標の状況】

項 目	H19 (基準年)	H20	H21	H22	H23	H24 (実績)	H24 (目標)
観光客平均宿泊数	1.22	1.19	1.16	1.21	1.33	1.28	1.25
外国人観光客宿泊者数(延べ人数)	135,634	134,616	142,490	153,514	118,870	191,593	261,000

■豊かな自然を生かした後志の「環境・景観」づくり

【推進エリア：後志地域】

【主な取組実績】

- 尻別川支流3河川における魚道整備及び環境調査の実施（H21～）、関係町村による尻別川のクリーン作戦実施など（H21～）
- 「森・川・海」の取組として、モデル地域での植樹及び育樹活動への支援を実施（H20～）
- 園児・児童らを対象とした環境教育を実施（H24:幼稚園1カ所3回、小学校2カ所各1回）（H23～）
- 「後志景観広告サイン推進事業」（地域政策推進事業）において策定した「羊蹄山麓景観広告ガイドライン」（H22.3月策定）の普及活用、空き家対策を促進（H21～）

【主な成果】

- 尻別川の魚道工の整備は全体で18ヶ所になり、魚類の遡上可能延長は93.0kmまで増加
- 環境教育の手法（レベル付き隊員証の交付）により、園児・児童自らが率先して環境に対し行動（継続性）を取るようになった。
- 市町村や緑化団体等による植樹・育樹活動の推進
 - ・環境保全のための植樹本数(H20～24)：37,159本
- 「羊蹄山麓景観広告ガイドライン」において、景観に配慮した小型の広告を推奨した効果により、許可の申請件数が、H21の648件からH24には435件に減少。
また、ガイドラインの方針により、管内の違反広告物等の除却が進んでいる。
 - ・違反広告物除去件数：H21…50件 H22…72件 H23…58件 H24…55件

【今後の取組方向（主なもの）】（H25～）

- ①「森・川・海」をつなぐ木育普及推進事業」（地域政策推進事業）により、「森・川・海」の認識を高め、地域への定着を図るため、体験プログラムなどを実施し、普及を図る。
- ②生物多様性に配慮した野生生物の適正な保護管理のため、関係機関との連携によるエゾシカ等対策の検討や、希少野生動植物の保護に向けた市町村等との協働による保護活動を推進。
- ③「後志広域景観づくり推進事業」（地域政策推進事業）により、後志全域における沿道景観等の景観形成の取組に向けた意向調査等や「ひらふ坂広告サインルール検討会」等での検討し、後志全域における広域景観づくりの推進を図る。
- ④「しりべし空き家BANK」の機能強化による空き家の活用促進や、関係機関等による廃屋・空き家対策の検討を進め、後志における取組“後志モデル”を構築する。

①②③④ ⇒ H25からの地域重点プロジェクト：「豊かな自然を生かした後志の『環境・景観・エネルギー』づくりプロジェクト」で推進

【地域で考える目標の状況】

項目	H19 (基準年)	H20	H21	H22	H23	H24 (実績)	H24 (目標)
魚類の遡上可能延長	76.4km	76.4	81.4	88.3	90.3	93.0	93.0
環境保全のための植樹本数	—	6,993 本	7,105 (累計) 14,038	8,500 (累計) 22,538	7,715 (累計) 30,253	6,906 (累計) 37,159	35,000

■いぶり環境チャレンジプロジェクト

【推進エリア：胆振地域】

【主な取組実績】

- カーボンオフセット活用型事業で植樹活動を支援（H22～H24）
- 洞爺湖町の「サミット記念の森」において記念植樹などの実施や、漁業協同組合等が行う植樹活動の技術支援を実施（H22～H24）
- 市町村における公共施設等への木質ペレットボイラーの導入支援や、公共施設等に木質ペレットストーブを展示するなど管内住民に対するPRの実施（H22～H24）
- 新エネルギーの活用事例の普及による導入の促進（H22～H24）
- 「北海道地球温暖化防止対策条例」に基づく、CO2排出削減に向けた普及啓発事業の実施（「いぶりガイアナイト」の実施、市町やNPO法人、各団体等との協働による環境関連イベントの開催など）（H21～H24）

【主な成果】

- 地球温暖化防止対策等の環境保全意識の向上
- 木質バイオマスエネルギーの利用が拡大
- 道民との協働による植樹（H20～24で計84回、47,164本植樹）
- 公共施設を中心として、ペレットボイラー77台、木質ペレットストーブ161台を導入（H24年度現在）

【今後の取組方向（主なもの）】（H25～）

- ①「いぶり環境・エネルギー」リーディングプロジェクト事業の実施による、地域住民等への啓発
- ②環境ビジネスの拡大に向けた地域の環境技術等の発信
- ③「北海道木質ペレット推進協議会」などの関係団体と連携し、各種PR活動を通じて、木質ペレットの普及PR活動の実施
- ④新エネルギーの活用事例の普及による導入の促進
- ⑤「北海道地球温暖化防止対策条例」に基づく、CO2排出削減に向けた普及啓発事業の実施（「いぶりガイアナイト」の実施、市町やNPO法人、各団体等との協働による環境関連イベントの開催など）

①②③④⑤ ⇒ H25からの地域重点プロジェクト：「いぶり環境チャレンジプロジェクト」で推進

【地域で考える目標の状況】

項目	H19 (基準年)	H20	H21	H22	H23	H24 (実績)	H24 (目標)
「北海道環境宣言」への賛同企業・団体数	—	2社	2	3	3	7	50

■いぶり・ものづくり産業元気力向上プロジェクト

【推進エリア：胆振地域】

【主な取組実績】

- 「胆振ものづくり産業振興連携会議」の連携支援体制を中心とした地場中小企業の技術力向上などによる経営基盤の強化（H22～H24）
- 胆振地域新産業創出連携支援会議の設置及び支援組織の活動（H22～H24）
- 地場中小企業に所属する現場技術者・技能者を対象に「現場力養成実践研修事業」を実施（H20～H23）
- 管内の企業や関係団体等、地域の産業界と教育機関との連携を強化（H22～H24）

【主な成果】

- 農商工連携ファンド事業採択7件、中小企業応援ファンド事業採択15件、農商工連携計画認定4件、地域資源計画認定5件
- 地域一体となった産業人材育成の取組「いぶり夢プロジェクト」の展開などにより、二次・三次産業の人材育成を促進

【今後の取組方向（主なもの）】（H25～）

- ①「胆振ものづくり産業振興連携会議」の連携支援体制を中心とした地場中小企業の技術力向上などによる経営基盤の強化
- ②地場中小企業の受注確保に向けた各種ビジネスマッチング事業の活用促進
- ③地域資源を活用した取組に対する胆振地域農商工連携・6次産業化推進検討会による支援
- ④新産業としての地域への定着化促進に向けたフォローアップの充実
- ⑤胆振管内に本店を置く3信用金庫との包括連携協定に基づき特産品の販路拡大に向けた取組を実施

①②③④⑤ ⇒ H25からの地域重点プロジェクト：「いぶり・ものづくり産業元気力向上プロジェクト」で推進

【地域で考える目標の状況】

項目	H19 (基準年)	H20	H21	H22	H23	H24 (実績)	H24 (目標)
地場中小企業を立地企業からの受注獲得へ導くために行う取組件数	-	-	2社	4	6	4	12
市町とのプロジェクト体制による新たな地域産業の創出に向けた発掘件数	-	6件	8	8	5	12	25

■いぶり・食と観光のプロムナード・プロジェクト

【推進エリア：胆振地域】

【主な取組実績】

- 洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会の活動支援（H22～H24）とジオパークを活用した観光地づくり支援プログラムの実施（H22～H23）
- 北海道登別洞爺広域観光圏協議会と連携した外国人観光客の受入促進（H22～H24）
- 胆振観光ルートマップ作成
- 3振興局連携による新たな広域観光ルートの開発及び普及（H23～H24）
- 「北のめぐみ愛食レストラン」のPR活動等の実施（H22～H24）

【主な成果】

- 観光ルートマップの配布による地域観光のPR
- 修学旅行誘致に向けた取組の推進による本州中学校の修学旅行の受入
- 「北のめぐみ愛食レストラン」の登録数の増加【H19 9店→H24 28店】

【今後の取組方向（主なもの）】（H25～）

- ①北海道登別洞爺広域観光圏協議会と連携した外国人観光客の受入促進
- ②3振興局（日高・胆振・十勝）連携による観光PR
- ③マツカワの認知度や付加価値の向上のための「王鯨」ブランドの確立に向けた取組支援
- ④胆振管内に本店を置く3信用金庫との包括連携協定に基づく観光・物産PR
- ⑤「洞爺湖有珠山ジオパーク」や「アイヌ古式舞踊」、「縄文遺跡群」など世界的な価値のある資源を活用した新たな魅力づくり

①②③④⑤ ⇒ H25からの地域重点プロジェクト：「いぶり・ものづくり産業元気力向上プロジェクト」で推進

【地域で考える目標の状況】

項目	H19 (基準年)	H20	H21	H22	H23	H24 (実績)	H24 (目標)
地財地消システムに参加する宿泊施設数	－	－	－	－	－	－	26
愛食レストランの登録数	9店	18	21	25	26	28	50

■いぶり農林水産業元気力向上プロジェクト

【推進エリア：胆振地域】

【主な取組実績】

- 地域課題解決研修でクリーン・有機農業等の課題の検証（H22～H24）
- 「北のめぐみ愛食レストラン」、地域農産物等のPR（H22～H24）
- 造林や間伐、伐採、保育など森林整備の計画的・効率的実施
- 市町村における公共施設等への木質ペレットボイラーの導入支援など、木質ペレットの需要拡大に向けた具体的取り組み（H22～H24）
- サケ、スケトウダラ、ホッキなどの資源管理計画策定支援及び管理措置の実施状況把握（H22～H24）
- マツカワの「王鰯」ブランド化や活メなどの鮮度保持、PR活動、価格アップに対する取組への支援（H20～H24）

【主な成果】

- エコファーマーの増加（実戸数）（H19：106戸→H24：281戸）
- 「北のめぐみ愛食レストラン」の登録数の増加（H19：9店→H24：28店）
- 計画的・効率的な森林整備（H20～24 造林2,761ha、間伐：7,260ha）
- 木質ペレットボイラー77台、木質ペレットストーブ161台を導入（H24年度末現在）
- マツカワ漁獲金額の増大

【今後の取組方向（主なもの）】（H25～）

- ①普及センター等との連携及びクリーン農業技術の普及
- ②イベント等におけるクリーン農産物や「YES!clean」等の認証・登録を受けた商品のPR
- ③計画的な森林施業を進めるための施業プランナーによる提案型施業の推進
- ④木質ペレットの普及PR活動の継続及び木質ペレットボイラーの導入支援
- ⑤水産物のブランド力を強化するための情報発信や付加価値の向上に向けた取組支援

①②③④⑤ ⇒ H25からの地域重点プロジェクト：「いぶり農林水産業元気力向上プロジェクト」で推進

【地域で考える目標の状況】

項目	H19 (基準年)	H20	H21	H22	H23	H24 (実績)	H24 (目標)
クリーン農業に取り組む生産集団数	26団体	31	33	34	29	28	39

■馬文化拠点地域形成プロジェクト

【推進エリア：日高地域】

【主な取組実績】

- 中国語版PRパンフレット作成・配布～日高来訪中国人への配布、北京でのプロモーション活動での活用（H23～）
- 管内場外発売所における応援イベントの開催～浦河町及び新ひだか町内の役場及びJ Aなどを中心に実施（H20～）
- 門別競馬場をメインに日高町の観光をブログにより情報発信及びPR（H20～）
- ひだか馬の絵コンテスト、馬文化出前教室、J R A日高育成牧場での見学会の開催（H20～）など

【主な成果】

- ホッカイドウ競馬全体の入場者が減少する中で、門別競馬場においてはほとんど減少しておらず、また、観光ツアーにも取り込まれるなど、観光面での活用が広がっている。管内場外発売所のイベント時のホッカイドウ競馬発売成績は売上が通常の3倍にもなる効果。イベントを通じた新規ファンの開拓にもつながっている。
- 馬の絵コンテストや出前教室の実施により、小学生をはじめ多くの方に地域文化である馬への認識を深めるための情報や機会を提供。馬文化の普及と担い手づくりに貢献。

【今後の取組方向（主なもの）】（H25～）

- ①「北海道競馬推進プラン」の着実な推進とあわせ、引き続き、門別競馬場「ひだか特産市」の開催、旅行代理店等との情報交換・PR、新たな食の開発、国内外への情報発信など、門別競馬場を利用した効果的な地域づくりを検討
- ②各地域で行う馬の持つ多様な機能を生かした取組の現状把握と環境づくりの方向性の検討
- ③民間団体との連携を図りながら、日高地域特有の馬文化に関する学習機会を提供し、馬文化の定着化を促進
- ④引き続き、インターネットや啓発資材を活用した情報発信により、馬文化の普及促進

①②③④ ⇒ H25からの地域重点プロジェクト：「馬文化拠点地域形成プロジェクト」で推進

【地域で考える目標の状況】

項目	H19 (基準年)	H20	H21	H22	H23	H24 (実績)	H24 (目標)
乗馬施設利用者数	24,050 人	21,387	23,468	21,023	19,442	20,197	30,000

■「日高」ブランドの構築

【推進エリア：日高地域】

【主な取組実績】

- 「食」のブランドづくりに向けて、道産米食率向上PR活動（消費者協会、競馬場）～おにぎり試食会とアンケート調査の実施や、びらとりトマト商標登録、コンブに係る各種調査の実施（H24～）
- 強い馬づくりと馬産地の活性化に向け、軽種馬経営の構造改革に向けた取組の支援、門別競馬場に屋内坂路調教施設の整備を実施（H20～）
- 「日高地域パエリア協議会」を設立し、日高産食材を活用した「日高スープパエリア」を開発（H24～）
- 地域の観光情報の共有化と観光資源を活用した旅行商品の造成を促進するための研修会やセミナーを実施～アポイ岳ジオパーク推進事業（様似町）（H20～）など

【主な成果】

- ブランド秋鮭「銀聖」については、年々、取り組みを拡大し、有名ブランドの一つとして各地に流通している。また、管内から、ミニトマト（規格外品）を主原料にジャムなど加工品の製造、販売を行うなど、6次産業化のモデルと評価できるものも見られている。その他、ツブについても継続して行ってきた各種PRの効果により、知名度は格段に向上。
- 観光モニターツアーや日高観光セミナー等の開催により、旅行商品の造成に関し、旅行会社との情報共有が図られたほか、地域間や産業間で連携した観光の可能性についての認識が深められた。また、H24ビジットジャパン地方連携事業の中国北海道観光プロモーションにおいて日高管内のルートが採用。

【今後の取組方向（主なもの）】（H25～）

- ①「食」のブランドづくりに向けて、日高地域のコンブ漁業の生産安定に向けた総合対策事業の実施や、ひげにんにくの試験栽培と施設等整備計画の策定
- ②引き続き、強い馬づくりと馬産地の活性化に向け、軽種馬経営の構造改革に向けた取組の支援
- ③「日高スープパエリア」の地元飲食店等における提供や普及、商品化に向けた検討や、「沙流太ほおずき絆の会（日高町富川）」での食用ほおずきの生産～加工・商品化の取組
- ④世界ジオパーク認定を目指すアポイ岳をはじめ日高の豊富な地域資源を活用、魅力ある観光地づくりを推進

①②③④ ⇒ H25からの地域重点プロジェクト：「『日高』ブランドの構築プロジェクト」で推進

【地域で考える目標の状況】

項 目	H19 (基準年)	H20	H21	H22	H23	H24 (実績)	H24 (目標)
農林水産物を活用した地域団体商標の取得数(団体)	0団体	0	0	0	1	1	3
観光入込客数(延べ人数)	2,114千人	1,962	1,904	1,644	1,621	1,566	3,000

■「日高の人・日高の暮らし」づくり

【推進エリア：日高地域】

【主な取組実績】

- 地域のリーダーづくりに向けて、米作り教室(浦河町)や青少年国内研修会交流事業(新冠町)、「海物語inみつし〜漁業出前授業」(新ひだか町)などの実施(H20~)
- 日高保健医療福祉圏域連携推進会議の開催(H20~)
- 各町ごとの津波ハザードマップ改訂、津波避難計画策定、日高管内防災関係機関連絡会議の設立(H24~)など
- ちょっと暮らし事業による空き家等の提供(日高町、平取町、新冠町、新ひだか町、浦河町)(H20~)

【主な成果】

- 漁業に関する出前授業の実施は受講者や学校側から好評を得ており、人材の定着化に寄与
- 日高保健医療福祉圏域連携推進会議の場において、保健医療福祉施策を受益者、提供者及び行政機関等で情報共有し、総合的かつ一体的な推進を図ることができた
- ちょっと暮らし事業による空き家等の情報提供により、移住希望者の受入、PRができた。

【今後の取組方向(主なもの)】(H25~)

- ①「ひだか食育推進協議会」(仮称)設立の連絡会議(時期：H25.4月~3回ほど開催予定)
- ②次世代の地域の産業を支える後継者や地域づくりの核となる人材を確保・育成するため、各種研修会や農林水産業体験などを通じ、地域のリーダーづくりの取組を推進
- ③医療従事者の確保や医療機関相互の連携を進めるとともに高齢者が暮らしやすい環境づくりを推進
- ④魅力的な二地域居住の発信として、フェイスブックを活用した移住関連交流情報等の提供
- ⑤ちょっと暮らしや移住者の増加を受け、受け入れ体制の強化

①②③④⑤ ⇒ H25からの地域重点プロジェクト：「『日高の人・日高の暮らし』づくりプロジェクト」で推進

【地域で考える目標の状況】

項目	H19 (基準年)	H20	H21	H22	H23	H24 (実績)	H24 (目標)
移住者数(人)	22	17	17	36	43	30	50